

# 【特別セッション】

当該セッションは、参加費無料です。

場所： 会場 A (400 講義室)

◆ 10 月 28 日 (土) 11:00~12:40

## 【GISCA 特別セッション

### 「地方創生のために GIS ができること」】

オーガナイザー： 大伴真吾

国立社会保障・人口問題研究所によると、日本の人口は、2015年国勢調査による1億2709万人から、2065年には8,808万人と推計され、高齢化率は、2015年の26.6%から、2065年には38.4%へと上昇するとのことである。さらに今日、東京の人口一極集中はとまる気配がない。この傾向が続けば、地方の人口は減少し続けることになり、地方創生はより困難になると考えられる。そこで、今回は「地方創生のために GIS ができること」をテーマにすえて、ディベートを行う。具体的には、以下に示す二つの立場を想定する。

- ・東京への人口集中を是認した上で、地方創生を考えるべき。
- ・東京への人口集中を抑制し、地方に人口を分散させるべき。

そして、それぞれの立場をとるグループを作り、GIS技術者の観点でアイデアを出し、両者で議論を展開する。

◆ 10 月 28 日 (土) 14:00~18:20

## 【多様化する GIS 教育

### ーウェブ GIS, FOSS4G, オープンデーター】

オーガナイザー： 相尚寿

地理情報システムが普及し、かつ多様な空間データが廉価もしくは無料で利用できる環境が整備されつつある現在、多様な場面で GIS 関連の教育が実施されるようになってきた。それは必ずしもかつての地理教育の延長として高機能な GIS の理論と実践を扱うものであるとは限らず、ウェブ GIS による情報収集と共有を目指したもの、オープンデータやフリーソフトの利活用にも主眼をおいたもの、ビッグデータの解析や可視化を行うものなど多様化し

ている。空間情報の収集や表示が行えるデバイスも専用ソフトの入ったパソコンに限らず、タブレットやスマートフォンにまで拡大している。本セッションでは、理学、工学、人文社会系など多様な分野の学生を対象にした GIS 教育あるいは業務内容に特化した実践力が求められる実務での GIS 研修の最新動向を共有し、多様な受講者や多様な作業環境の中での GIS 教育でいかなる工夫が行われているかを探る。

◆ 10 月 29 日（日）9：00～11：00

### 【GIS と AR を組み合わせた地理教育】

オーガナイザー： 伊藤 悟 山本佳世子

高等学校で 2022 年度以降、必修科目として開設される「地理総合」では、GIS の活用がより重要になる。しかし、GIS の活用について、学校現場に不安がないわけではない。そこで、容易に GIS を利用し、かつ効果的な授業が展開できる方法の 1 つとして、GIS と AR（拡張現実）技術の組み合わせに関心を寄せ、本セッションでは、その授業実践の試みやシステム開発について、次のような報告をもとに意見・情報交換を行う。

1) 伊藤 悟，井田仁康

「地理教育における AR（拡張現実）技術の有用性－位置情報型 AR に焦点をあてて－」

2) 久島 裕，伊藤 悟，鶴川義弘，秋本弘章

「GIS と AR を組み合わせた地理教育(1)－福井県立武生高等学校での実践例－」

3) 大西宏治，秋本弘章，鶴川義弘，伊藤 悟

「GIS と AR を組み合わせた地理教育(2)－富山高等専門学校射水キャンパスでの実践例－」

4) 秋本弘章

「GIS と AR を組み合わせた地理教育(3)－獨協大学の教職課程における教材開発実践－」

5) 鶴川義弘，齋藤有季，伊藤 悟

「地理・環境・防災教育に使える位置情報型 AR アプリの開発」

6) 山本佳世子，牧野隆平

「地理教育におけるバーチャル時空間情報システムの利活用」

◆ 10月29日（日）12：20～14：00

【今後の地域の情報システム×

市民×まちづくりのあり方】

オーガナイザー： 関本義秀 瀬戸寿一

近年，IoT・スマートシティ等，技術的には様々なものが出ているが，地方自治体等，地域のステークホルダー等を巻き込むようなデータ，システムを使った興味深い取組や，国内外のトレンドはどのようなものがあるだろうか？ 以下の対談形式で進めていく。

「国内外のシビックテック・スマートシティの取組と地方間の連携」 大西宏治（富山大）× 瀬戸寿一（東京大）

「市民協働型レポートちばレポの展開と地域のIoT」

蒔苗耕司（宮城大）× 東修作（Georepublic Japan）

「都市計画の現場とツールのあり方」

増田聡（東北大）× 関本義秀（東京大）